

授業科目

成人言語障害学Ⅰ

2. 医療技術学部 (言語聴覚学科)

【担当教員名】 渋谷直樹	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【一般目標：G10】

成人脳損傷者のリハビリテーションにおけるチームアプローチに専門職として参加するため、成人に発生する言語・コミュニケーション障害（失語および右半球損傷・痴呆・頭部外傷などによるコミュニケーション障害）の言語症状の特徴や鑑別の方法を理解し、他の専門職との連携のあり方について認識を深める。他の専門家に情報を提供するために、検査法、面接法、指導法などを習得し、また評価結果を簡潔にまとめるための基礎知識を身につける。

【行動目標：SBO】

1. 失語学の生い立ちについて説明し、その発展の概略について述べるができる。
2. 失語の発生のメカニズムについて、原因疾患と病巣を中心に整理して述べるができる。
3. 失語の言語症状を説明すると共に、他の症状と鑑別することができる。
4. 失語の分類名を列挙しその特徴を述べるとともに、典型例については他から鑑別して同定できる。
5. 失語と鑑別すべきコミュニケーション障害を列挙し、主な鑑別点を説明できる。
6. 失語のリハビリテーションの流れについて、チームアプローチの観点から説明できる。
7. 失語の予後についてその概略を説明できる。
8. 言語評価に必要な医学的・社会的情報を収集する方法を列挙できる。
9. 失語の主な検査法を列挙し、その目的や特徴について説明できる。
10. 代表的検査法の一部を模擬患者に実施できる。
11. 各種検査結果を集計し、総合的な報告書を作成するための基礎を身につける。
12. 障害者や家族に対し評価結果を説明する方法の要点を説明できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
	追って知らせる		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	脳卒中後のコミュニケーション障害	竹内愛子・河内十郎編著	協同医学出版社	1995年、5600円 ISBN: 4-7639-3009-5
参考書	適宜紹介する			
その他の資料	プリント			

【評価方法】 出席状況とレポート、期末試験により評価する。	【履修上の留意点】
----------------------------------	-----------